

## “高槻市古墳（今城塚）探訪”（日時：令和5年5月18日10:00～15:00）

令和5年11期生35名がJR高槻駅10時に集合し、高槻市観光ボランティアガイド佐伯一義氏の案内で、

JR高槻駅～芥川宿～今城塚古墳/古代歴史館～鬮鶏野（つげの）神社～新地ハニワ公園～上土室バス停～JR摂津富田駅15時のコースで散策した。

高槻市は今城塚古墳をはじめ全国に誇る多くの歴史遺産のある人口35万人の都市である。（右図：今城塚古代歴史館資料より）



- ・芥川宿—京都（東寺口）から大山崎を経て西宮で中国街道に交わる西国街道の約64kmの芥川3丁目は、江戸時代宿場町として栄えた。芥川一里塚（芥川宿、教宗寺）、清福寺太子堂、鳴上郡衛跡、阿久刀神社、三好義興の墓を経て、今城塚古墳へ散策した。



- ・今城塚古墳—三島古墳群に所属する高槻市郡家新町にある前方後円墳で、6世紀前半では最大の古墳であった。第26代継体天皇の陵とされている。墳丘の長さ190m、二重の壕を張り巡らし340m×350mの釣鐘状の淀川流域最大規模の墳墓である。内堤から、新地埴輪製作遺跡で製作された形象埴輪が220点出土した。古墳の周辺を6000本の円筒埴輪で横一列に並べられていた。

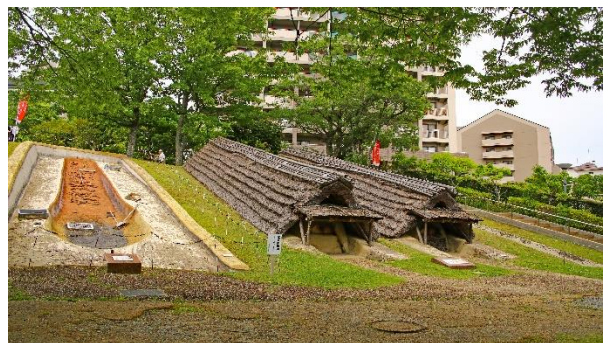


- ・太田茶白山古墳—三島古墳群に所属する茨木市太田3丁目にある前方後円墳で、前方部を南に向けている。墳丘長は226m、高さ19.8m。円筒埴輪、形象埴輪は新地埴輪製作所で製作されたものであった。現在宮内庁により第26代継体天皇の陵に治定されている。

- ・**鬩鷄野(つげの)神社**—神社の参道(陸橋)は名神高速道路の高槻JCTと茨木JCTのだいたい中間地点にある。鳥居をくぐり階段をのぼると高速道路の陸橋に到達し、それを渡ると鬩鷄野神社の社殿がある。この地の氏神で、神社の裏には古墳時代前期(4世紀前半)の王の前方後円墳が見つかった。



- ・**新地ハニワ工場(こうば)公園**—継体天皇の墓と言われている今城塚古墳、太田茶白山古墳、番山古墳などの埴輪を製作した工場の跡である。18基と工房(作業場)、3棟と埴輪職人たちの住居が整っていたこの工場は3期間およそ100年間、断続的に操業した。西暦450年頃、太田茶白山古墳のために窯3基と工房3棟、住居3棟で埴輪を焼いた。西暦480年頃、新たに窯5基、住居7棟で番山古墳の埴輪を焼き、530年頃、今城塚古墳のために10基の窯が作られた。付近に埴輪作りに適した土があり、松ヤニで高温が得られる松を植林して埴輪を製作した。



14時半頃に上土室バス停より高槻市バスの臨時バスで、JR 摂津富田駅 15時に到着し解散した。以上